

F01

武力評価システム v6.0

呂布

総合武力評価

98.7 /100

LEGENDARY



▲ システム警告

データ異常を検知

通説は過大評価の可能性

歴史結論

天下第一

/96%

最新評価結果

結論が反転中...

RE-EVALUATING

67%

第

神話、いま崩れつつある——

真相、いま再び裁かれる！

呂布は本当に 三国志演義で 天下第一なのか？

——六百年にわたり語り継がれた

「第一猛将」神話を解く

什年 著
什年工作室

『三国志演義 武力超百科』無料研究シリーズ

F01

呂布は本当に三国志演義で 天下第一なのか？

――六百年にわたり語り継がれた
「第一猛将」神話を解く

什年 著

什年工作室

書名 | 呂布は本当に三国志演義で天下第一なのか？——六百年にわたり語り継がれた「第一猛将」神話を解く

シリーズ | 『三国志演義 武力超百科』無料研究シリーズ F01

著者 | 什年

出版者 | 什年

発行人 | 李家榮

ブランド／電子書籍制作 | 什年工作室

言語 | 日本語

出版形式 | Reflowable EPUB 3

定価 | 無料 (NT\$0)

ISBN | 978-626-01-7124-7 (EPUB)

バージョン | F01-JP-v1.0

出版年月 | 2026 年 9 月

著作権声明 |

本書の著作権は著者・什年に帰属する。許可なく、いかなる形式でも複製、改変、転載、再アップロード、公衆送信、配布、転売、その他の商業利用を行うことを禁ずる。

説明 |

本書は『三国志演義 武力超百科』無料研究シリーズの一冊であり、研究への導入およびテーマ入口として構成されている。研究の全容は『三国志演義 武力超百科』完全版を参照されたい。

本冊の研究結論は『三国志演義 武力超百科』（以下『演義武超』）に基づく。

FREE RESEARCH EBOOK・F01

出版・研究について

データ出典ロック

本冊の研究結論、人物ランキング、戦例番号、版本判定、武力値、十二維データは、すべて『三国志演義 武力超百科』繁体字中国語版を唯一の研究出典とする。旧稿、チャット要約、その他の版と矛盾する場合は、すべて『演義武超』を優先する。

本冊は「無料研究小冊子」であり、完全版の縮刷版ではない。扱うのは一つの問い——呂布は本当に『三国志演義』の天下第一なのか、という問題だけである。論証を完結させるため、必要な版本差、戦例、比較チェーンのみを抜粋する。残る 541 名の武将、547 の戦例、二十二節の基礎武力理論、完全な十二維モデルについては、『演義武超』完全版を基準とする。

本冊が論じるのは『三国志演義』小説内の武力体系だけであり、正史『三国志』における個人武勇を演義ランキングへ混入させない。この二つは問いも証拠も評価ロジックも分けて扱わなければならない。

SERIES NOTE

無料研究シリーズ：なぜ第一冊は呂布から始めるのか？

三国志ファン百人に「『三国志演義』で誰が最強か？」と尋ねれば、最も反射的に返ってくる答えはおそらく呂布だろう。虎牢関では一人でまず張飛と戦い、続いて関羽、劉備を迎え撃つ。さらに赤兎馬、方天画戟、「人中に呂布あり、馬中に赤兎あり」という文化的イメージが、この答えをほとんど自明の常識に見せてきた。

だからこそ F01 は、知名度の低い人物からではなく、最も堅固な神話から切り込む。「呂布天下第一」が本当に成立するなら、版本、合数、共通対戦相手、人物状態、全戦績を横断した検証に耐えなければならない。耐えられないのなら、「印象」と「文本証拠」を切り分ける必要がある。

結果を直接比べるのではない。まず条件を補正し、その後で能力を比較する。

『三国志演義 武力超百科』無料研究シリーズの核心方法

本冊の目的は、呂布を凡庸な武将へ引きずり下ろすことではない。むしろ逆である。神話をいったん外してこそ、彼が本当に恐ろしい理由が見える。『演義武超』はなお呂布を超一流の核心に置き、基礎武力値 99 とし、全書でも最上位のごく少数に含めている。しかし「超一流」と「唯一の天下第一」は、まったく別の命題である。

CONTENTS

目次

読者はまず結論から 呂布は強い、しかし第一ではない

第一章 なぜ「呂布天下第一」はこれほど深く信じられてきたのか？

第二章 武力を論じる前に、まず版本と方法を正しく置く

第三章 虎牢関は呂布天下第一を証明していない

第四章 張飛——「第一神話」を地上へ引き戻す最初の基準

第五章 許褚——呂布の位置を測る物差し

第六章 関羽——複数の証拠線が呂布を上回る

第七章 毛本でも「呂布第一」は救えない

第八章 本当の第一は誰か？ F01 では必要な答えだけ示す

第九章 呂布の本当の位置——頂級 Raid Boss であっても、孤立した神ではない

第十章 最も多い五つの反論に一気に答える

結語 天下第一を崩すことは、呂布を否定することではない

付録 A F01 核心証拠マトリクス

付録 B 天下トップ 10 と呂布十二維クイックリファレンス

付録 C 版本・用語クイックリファレンス

関連読書 F02～F10 と完全版への入口

30-SECOND VERDICT

読者はまず結論から：呂布は強い、しかし第一ではない

F01 最終判定

『演義武超』の版本選択、547 戦例システム、共通対戦相手比較、武力変動、十二維モデルに基づけば、呂布には「『三国志演義』で唯一の天下第一」と断定できる証拠チェーンがない。完全版の総合ランキングでは趙雲が天下第一。呂布は超一流核心群に位置し、正式順位は第6位、基礎武力値99である。

この結論が受け入れにくいのは、大衆の記憶にある「呂布第一」が一つの戦績ではなく、文化的イメージの集合体だからである。三英戦呂布、赤兎馬、方天画戟、飛將の威名、歴代ゲームの数値、後世版本による戦闘細部の改変。それらが重なり、長い時間をかけて「常識」のようになった。

しかし武力ランキングを研究として成立させるなら、「みんながそう言っている」で終えることはできない。本当に問うべきなのは、呂布が最重要の対一対で張飛を安定して上回ったのか。許褚より明確に一段高いのか。関羽の文本上の位置づけは本当に呂布より下なのか。毛宗崗修訂後の『三国志演義』は本当に呂布を第一へ押し上げたのか。この四点が成立しないなら、「天下第一」は支柱を失う。

本冊はこの四本の証拠チェーンを順に解体する。最後に見えてくるのは、「呂布は弱い」という雑な答えではない。呂布は全書でも最も危険で、装備が豪華で、前半の大魔王に最もふさわしい頂級猛将の一人である。しかし羅貫中の武力世界は、すべての強者を呂布の影の下へ並べてはいない。

MYTH FORMATION

第一章 | なぜ「呂布天下第一」はこれほど深く信じられてきたのか？

一、虎牢関の物語上の位置が強すぎる

呂布は登場が早く、その登場のさせ方も極めて華麗である。十八路諸侯の会盟自体が「天下英雄の総点検」のような舞台で、呂布は次々に弱将を退け、公孫瓚を追い、最後には張飛・関羽・劉備の三人を同時に引き出す。初見の読者が「三人必要だった」＝「呂布一人は三人の誰よりも必ず強い」と受け取るのは自然だ。

だがこれは典型的な物語上の直感であって、必然的な戦力ロジックではない。囲攻が成立した事実から分かるのは、囲まれた側に高い総合耐圧、機動、防御能力があることまでである。「囲まれた側＞囲んだ各人」を導くには、各段階の実際の交戦へ戻らなければならない。このロジックは F02 で詳しく扱い、本冊では F01 の答えに必要な部分だけを取る。

二、「人中に呂布あり、馬中に赤兔あり」が人物と神装備を一体化した

呂布のイメージは本人だけで成り立っていない。赤兔馬と方天画戟は、読者の頭の中でほとんど彼の名と切り離せない。『演義武超』の十二維にもそれは明確に表れ、呂布の GEA（装備）は 9.3 に達し、最大級の長所となっている。「頂級武将＋頂級乗騎＋頂級兵器」という組み合わせは、視覚的にも記憶上も、神装備の光輪を持たない人物よりはるかに「天下第一」らしく見える。

だからこそ研究では、「人物自身の総合武力」と「ハードウェア・ボーナス」を合わせて扱う必要がある。装備が生む圧迫感を、そ